

# 19. ヒノキカワモグリガ防除試験 バンド法による幼虫の捕獲調査

土屋大二

## 〔目的〕

スギ、ヒノキの穿孔性害虫であるヒノキカワモグリガの被害は、幹や枝の付け根の内樹皮を食害するため材内に褐色痕が生じ、材価を著しく低下させる。そのため防除法の確立が急務となっている。本種の生態及び加害形態調査は、スギ林を対象としたものが多くヒノキ林での調査が遅れている。当场試験林のヒノキ林においてヒノキカワモグリガ幼虫の捕獲調査を行い、防除効果の検討を行った。

## 〔方法〕

調査は当场試験林のヒノキ林10年生（A区）と13年生（B区）で行った。調査方法はスギカミキリ用に開発されたバンド（粘着板）を用い、立木の高さ約1.5mの位置に設置した（写真一1・2）。設置日は11月2日で、回収日は12月21日に行った。また、ヒノキ樹幹部に生ずる樹脂流出や虫糞・虫穴の位置について高さ方位を記録した。

## 〔結果〕

ヒノキカワモグリガの習性として、枝条部に生息していた幼虫が季節によって樹幹部に移動することが知られている。その習性を利用して移動する幼虫を粘着板で捕獲し、本種の生息密度の推定や捕獲方法を検討した。

調査位置を図一1に示す。A区では西側斜面で、B区では南側斜面である。この林分でのヒノキカワモグリガの被害は少ないが、1本に虫糞・虫穴が数例集中する例もみられた。今回の調査地では比較的少ないが、今後の発生経過をみるために、少ないところを選びに行った。したがって、数年間連続して調査する計画である。

調査結果を表一1に示す。今回捕獲できたヒノキカワモグリガ幼虫は、両区あわせて僅か1匹であった。このことは、本種の生息密度が低いことや習性である移動時期でなかったことがあげられ、今後の調査結果と比較してみたいと考える。他で捕獲できたものは、ムカデ、クモ、カメムシなど物陰にかくれる習性をもつ昆虫類が採取された。樹幹部に生じた樹脂流出と虫糞等の発生状況は、A区では樹脂流出数は14箇所、虫糞・虫穴数は0箇所であるのに対し、B区では樹脂流出数は42箇所、虫糞と虫穴数は12箇所であった。樹脂流出数と虫糞と虫穴数との関係は明らかでないが、虫糞や虫穴が多いと樹脂流出数が増加する傾向を示した。

次に、樹幹部に生じた樹脂流出と虫糞等の発生方位についてみると、虫糞や虫穴は北方向に多い傾向をみせるが、樹脂流出部では一定した方向性は認められなかった。

表-1 捕獲調査

	平均樹高	DBH	捕 獲 昆 虫 類					糞	穴数	樹脂数
			ヒノキカワモグリガ	その他昆虫	クモ	ムカデ	その他			
A	5.3	7	0	0	2	3	2	0	0	14
B	6.9	10	1	2	9	8	0	6	6	42

表-2 樹幹部での虫糞・虫穴・樹脂流出の方位

方位	N	NE	E	SE	S	SW	W	NW
糞	:1	:1	:1		:2		:1	
穴のみ	:3	:3						
透明	1:2	1:4	:6	1:1	1:6	1:3	1:3	
白ヤニ	1:2	2:2	1:	2:2	2:3		:4	:1
黄ヤニ					:2	:2		

左・・・A 右・・・B

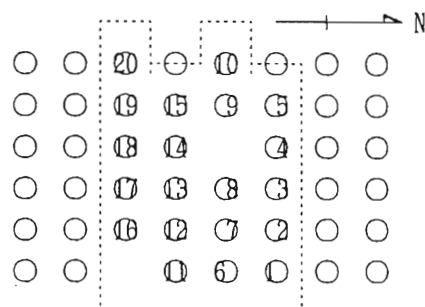


図-1 A調査地

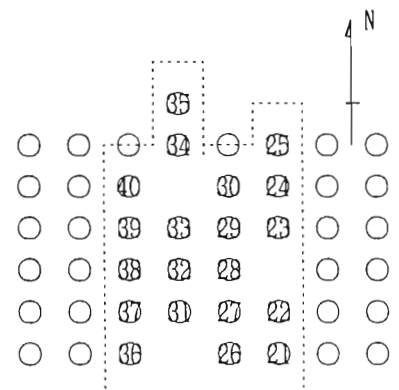


図-2 B調査地



写真-1 A調査地



写真-2 B調査地